事例１

最低制限価格の算出例（土木工事）

【計算例】

次の発注案件に対し、表－１のような開札があったとする。

発注案件・・設計金額（税抜）　8,103,000 円

設計金額の内訳	直接工事費	4,584,300
	共通仮設費	897,000
	現場管理費	1,626,000
	一般管理費等	995,700

注：設計金額の内訳については、開札時は非公表。

開札状況（表－１）

入札参加者	入札金額	くじ番号	入札書受信日時	ミリ秒単位	区分
A者	8,100,000	265	R4.10.10　10時00分05秒	123	電子
B者	6,850,000	251	R4.10.10　12時02分15秒	400	電子
C者	6,800,000	200	R4.10.10　10時45分25秒	254	電子
D者	6,780,000	150	R4.10.10　09時13分05秒	361	電子
E者	6,750,000	220	R4.10.10　11時00分05秒	123	電子
F者	8,000,000	000	R4.10.10　12時10分52秒	524	紙

注：紙入札で参加の場合、入力くじ番号は000となり、入札書受信日時は、入札機関が入力した時刻になる。

１．最低制限基本価格（税抜）の算定

最低制限基本価格

＝　直接工事費×0.97＋共通仮設費×0.90＋現場管理費×0.90＋一般管理費等×0.68

＝　4,584,300 × 0.97+897,000 × 0.90+1,626,000 × 0.90+995,700 × 0.68

＝　7,394,547

＝　7,394,000　← 千円未満切り捨て、千円単位で丸める。

最低制限基本価格は，7,394,000円 になる。

２．ランダム係数の算定

ランダム係数は、電子入札システムにおいて、入札参加者が入力する任意の３桁くじ番号と入札書受信日時の秒（ミリ秒単位の下3桁を使用）をもとに自動的に算出される無作為の「1.0000～1.0060」の範囲で0.0005刻みの１３通りの数字です。

① くじ番号（３桁）と入札書受信日時のミリ秒単位（下3桁）の総和を算出する。

くじ番号の計　265+251+200+150+220+000=1,086
ミリ秒単位の計　123+400+254+361+123+524=1,785
総和　1,086+1,785=2,871

② 総和を13で除し、余りを算出する。

2,871÷13＝220余り11

③ ランダム係数対応表により、ランダム係数を決定する。

今回の場合は、余りが１１になるため、

ランダム係数対応表（表－２）

余り	0	1	2	3	4	5	6
ランダム係数	1.0000	1.0005	1.0010	1.0015	1.0020	1.0025	1.0030
余り	7	8	9	10	11	12	
ランダム係数	1.0035	1.0040	1.0045	1.0050	1.0055	1.0060	

ランダム係数は、1.0055 になる。

３．最低制限価格（税抜）の算定

最低制限価格
＝ 最低制限基本価格×ランダム係数
＝ 7,394,000×1.0055
＝ 7,434,667
＝ 7,434,000

千円未満切り捨て、千円単位で丸める。

最低制限価格は、7,434,000円 になる。